

平成27年度全国学力・学習状況調査 結果・分析と今後の指導について

帯広市立広野小学校

本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面であると考えます。また、本校においては、調査を受けた児童が4名という極めて少ない人数ですので、結果をそのまま学校全体の傾向として捉えることは難しいと考えております。

1 国語

(1) 結果・分析(国語A)

全国の正答率に対して低い正答率となっており、言語についての基礎的・基本的な知識・理解に課題があると考えられる。特に、文の中の主語、修飾・被修飾の関係等についての知識・理解が十分でない様子がある。また、話し手の目的や意図を捉えながら聞く問題での正答率も低くなっている。

(2) 結果・分析(国語B)

全国の正答率とほぼ同等の正答率となっており、言語についての基礎的・基本的な知識・理解は不十分ながら、一方では国語を実生活の様々な場面に活用しようとする力が身につけてきている姿が見られる。

(3) 今後の指導

「活用」する力を今後も伸ばしていくためにも、言語についての基礎的・基本的な知識・技能をしっかりと身に付けさせていくことが今後の大きな課題である。「だれが」「いつ」「どこで」「なにを」「なぜ」などという文の構成について、初歩的な理解ができるように丁寧に指導していく必要がある。

また、「話すこと・聞くこと」領域では、話し手の目的や意図を捉えながら聞き、内容について自分の考えと比べ、共通点や相違点、関連して考えたこと等を整理し、自分の考えをまとめるよう指導していく。

そして、「活用」の力をさらに高めていくには、複数の情報から必要な情報を取捨選択し、整理する力を付けていくことも大切である。

2 算数

(1) 結果・分析(算数A)

全国の正答率に対してやや低い正答率である。簡単な四則計算の問題で計算ミスをしてしまったという課題もあるが、これまで基礎・基本の定着を図るために授業で取り組んできた成果が表れてきていると考えられる。

(2) 結果・分析(算数B)

全国の正答率に対して低い正答率となっている。基礎基本の定着がみられているが、多くの問題で正答率が低く、活用する力は大きな課題が残る結果になったと言える。

(3) 今後の指導

基礎的・基本的な知識・技能は徐々に身につくにつると考えられるが、一方では低学年で学習する内容までさかのぼって繰り返し復習していく必要もあると考えられる。

基礎的・基本的な知識・技能を活用する力は今後の大きな課題である。知識・技能の習得はもちろん大切だが、その際も「なぜそうするのか」「どのように日常生活に結びついているのか」といった視点も大切にし、算数的に考える良さを実感させていく指導が必要である。

3 理科

(1) 結果・分析(A区分・・・物質・エネルギー)

全国の正答率に対して低い正答率となっている。「知識」に関する問題では、メダカの雌雄を見分ける方法や器具の名称を答える問題では正答率が高くなっている。しかし、実験における器具の使い方や星座の動きを観察する際の必要な記載事項を問う問題で課題が見られる。

(2) 結果・分析 (B 区分・・・生命・地球)

全国の正答率に対して低い正答率となっている。「知識」に関する問題の顕微鏡の操作方法では、全国の正答率よりも高い正答率となっている。少人数のため、実験や観察に丁寧に取り組んでいる成果が現れていると考えられるが、A 区分の誤答のように、全領域において実験器具の扱いについての知識・理解が十分ではないという実態もある。また、主として「活用」に関する問題では、グラフや記録、問題文の情報から考察して分析するという問題に課題が残った。

(3) 今後の指導

実験観察においては、使用する器具や観察の条件などについて、「なぜそのような使い方をするのか。」「なぜその条件が必要なのか。」ということについて理解を深めた上で行っていくことが大切である。

また、グラフや観察記録などと学習したことを関係付けて考えるなど資料(情報)を読み解く力を高める工夫が必要である。

4 児童質問紙 (〇…100%回答)

(1) 学習に関すること

①国語

○国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思っている。

②算数

- 算数の勉強は好き。
- 算数の勉強は大切だと思う。
- 算数の授業の内容はよく分かる。
- 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した。

③理科

- 自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがある。
- 観察や実験を行うことが好き。
- 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した。
- 調査問題の解答時間は十分。

(2) 学習・生活習慣に関すること

- 友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる。
- 将来の夢や目標を持っている。
- 家で学校の授業の復習をしている。
- 学級会などの時間に友達同士で話し合ってきたりなどを決めている。
- 人の気持ちが分かる人間になりたいと思う。
- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思っている。
- 人の役に立つ人間になりたいと思っている。
- 難しいことでも失敗を恐れて挑戦していない。
- 学習時間 1 時間以上と、30分～1 時間が半々。
- 図書室、図書館の利用が月に 1～3 回。
- 新聞を読むのは月に 1～3 回。

(3) 分析

- ☆国語科の学習状況(関心・意欲や図書館、新聞の活用など)と学力との相関関係を否定できない部分もあるのではないか。
- ☆文章を書くことへの苦手意識や関心の低さは感じられず、国語 B 問題の正答率にも表れていると言えるのではないか。
- ☆人に優しく、人のために頑張りたいという気持ちが育っており、家庭・地域の教育力の影響であるとともに、最高学年としての自覚と責任感が育っていると考えられる。